

# JIS

## ばね製図

JIS B 0004 : 2007

(JSMA/JSA)

平成 19 年 4 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 機械要素技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	大 園 成 夫	東京電機大学
(委員)	相 羽 繁 生	社団法人日本ばね工業会
	石 丸 尋 士	社団法人自動車技術会
	大 山 忠 一	社団法人日本バルブ工業会
	桑 田 浩 志	財団法人日本規格協会
	小 林 正 彦	社団法人日本工作機械工業会
	佐々木 信 也	独立行政法人産業技術総合研究所
	高 辻 利 之	独立行政法人産業技術総合研究所
	高 橋 勝 良	社団法人日本ベアリング工業会
	飛弾野 文 英	日本工具工業会
	丸 山 一 男	工学院大学
	望 月 正 紀	社団法人日本ねじ工業協会
(専門委員)	村 井 陸	財団法人日本規格協会

---

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 31.1.19 改正：平成 19.4.20

官 報 公 示：平成 19.4.20

原 案 作 成 者：社団法人日本ばね工業会

(〒101-0038 東京都千代田区神田美倉町 12 MH-KIYA ビル TEL 03-3251-5234)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：機械要素技術専門委員会 (委員長 大園 成夫)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人日本ばね工業会(JSMA)／財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS B 0004:1995** は改正され、この規格に置き換えられる。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に係る確認について、責任はもたない。

**JIS B 0004** には、次に示す附属書がある。

附属書 A (参考) 幾何公差の図示方法

## 目 次

	ページ
1. 適用範囲.....	1
2. 引用規格.....	1
3. 定義.....	1
4. ばねの図示方法.....	1
4.1 ばねの種類及びその例.....	1
4.2 基準状態.....	2
4.3 表現方法.....	2
4.4 その他.....	2
5. 要目表の表示方法.....	2
附属書 A (参考) 幾何公差の図示方法.....	39
解 説.....	42

## ばね製図

## Technical representation of springs

1. **適用範囲** この規格は、ばねの図示方法及び設計・製作仕様の表示方法について規定する。

**備考** ばね及びばね要素は、他の機械要素部品と異なり、所定の力を作用させたときの寸法又は所定の寸法にしたときの発生力を指定して設計・製作することが多いので、単なる寸法形状だけの表示では不十分である。このため、この規格では主な技術仕様を合わせて表示することとしている。

2. **引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

**JIS B 0001** 機械製図

**JIS B 0103** ばね用語

**JIS Z 8114** 製図用語

**ISO 2162-1** Technical product documentation—Springs—Part 1: Simplified representation

3. **定義** この規格で用いる主な用語の定義は、**JIS B 0103** 及び **JIS Z 8114** によるほか、次による。

- a) **要目表** 図には表現しにくい設計及び製作仕様の詳細を、所定の項目について記載した表の慣用名。

#### 4. ばねの図示方法

- 4.1 **ばねの種類及びその例** 例示するばねの種類及びその例は、次による。ばねの図示方法は、**JIS B 0001** によるほか、付図 1～53 による。

なお、簡略図（付図 11, 12, 15, 18, 20, 22, 27, 30, 32, 34, 36）については、**ISO 2162-1** による。

- a) 圧縮コイルばね（熱間成形，冷間成形）（付図 1～12）
- b) 引張コイルばね（付図 13～15）
- c) ねじりコイルばね（付図 16～18）
- d) 重ね板ばね（付図 19～25）
- e) トーションバー（付図 26 及び付図 27）
- f) スタビライザ（付図 28）
- g) 竹の子ばね（付図 29 及び付図 30）
- h) 渦巻きばね（付図 31～34）
- i) 皿ばね（付図 35 及び付図 36）
- j) 止め輪（付図 37～41, 付図 48～51）